

いっすんほうし

一寸法師は大きくなったので、もううれし

くつてうれしくつて、立たつたりしやがんだ

り、うしろを振り向むいたり、前まえを見みたり、

自分じぶんで自分じぶんの体からだをめずらしそうにながめて

いましたが、一通りひとつおながめてしまおうと、急きゆう

に三日三晩みっかみばんなんにも食たべないで、おなかのへ

つていることを思おもい出だしました。そこでさつ

そく打うち出での小槌こづちを振ふつて、そこへ食たべきれ

ないほどのごちそうを振ふり出だして、お姫ひめさま

と二人ふたりで仲なかよく食たべました。

よんだかいすう】 【かい

(一寸法師 より)